



2019年12月6日 発行

「献血ヴェノグロブリンIH10%静注」の供給不足に伴う対応について（第4報：新規処方制限）

『薬剤部からのお知らせNo.10、11、16』でお伝えしましたように、「献血ヴェノグロブリンIH10%静注」が供給不足となっています。これまで薬剤の変更等にご協力いただくとともに、さまざまな対応により在庫確保に努めてまいりましたが、使用量の増加にともない、供給量と使用量のバランスが取れなくなってきております。

「献血ヴェノグロブリンIH10%静注」のみが適応となっている全身型重症筋無力症および多発性筋炎・皮膚筋炎の症例への使用量を確保するため、**2019年12月10日(火)より、すべての規格の新規処方に制限をかけさせていただきます。**

「献血ヴェノグロブリンIH10%静注」のみ適応のある疾患への新規処方の際には、薬剤部医薬品情報管理室(内線 7083、夜間・休日はPHS:6888)までご連絡ください。

○ 当院における他のグロブリン製剤

適応症が薬剤によって異なりますが、適応が限定されている疾患以外は可能な限り他のグロブリン製剤を使用させていただきますようお願いいたします。

献血グロベニン-I静注用5000mg	献血ベニロン-I静注用2500mg
	

○ 「献血ヴェノグロブリンIH10%静注」の各規格の状況

2.5g製剤	5g製剤	20g製剤
		
オーダー制限中	オーダー制限開始	オーダー制限開始

○ 各グロブリン製剤の適応症（※ピンク背景は献血ヴェノグロブリンIH10%静注のみ）

	献血ヴェノグロブリンIH10%静注	献血グロベニン-I静注用	献血ベニロン-I静注用
低又は無ガンマグロブリン血症	○	○	○
重症感染症における抗生物質との併用	○	○	○
特発性血小板減少症紫斑病	○	○	○
川崎病の急性期	○	○	○
多発性筋炎・皮膚筋炎の筋力の低下改善	○		
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の筋力低下の改善	○	○	
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の進行抑制	○	○	
全身型重症筋無力症	○		
天疱瘡	○	○	
水疱性類天疱瘡	○	○	
ギラン・バレー症候群	○	○	○
IgG2値低下を伴う、反復する急性中耳炎等	○		
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症における神経障害の改善			○
スティーブンス・ジョンソン症候群及び中毒性表皮壊死症		○	

不明な点につきましては、薬剤部・医薬品情報管理室(内線 7083)までご連絡下さい。

(文責：小林)